

共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究

期間：2016 年～

〔所員〕 前田禎彦 小熊 誠 田上 繁

〔客員研究員〕 萬井良大

〔特別研究員〕 鈴木江津子

「二神司朗家文書」の整理・保全の進捗状況

前田 禎彦

2008 年度から神奈川大学日本常民文化研究所が進めてきた「共同研究 瀬戸内海の歴史民俗」が、2015 年度に一段落したことをうけ、2016 年度からは、所員田上繁、小熊誠、前田禎彦の 3 名を中心に二神島及び二神家の歴史民俗研究を継続することになった。

2017 年度は、2018 年 3 月 22 日から 25 日にかけて二神島に一部置かれたままになっていた「二神司朗家文書」の確認・整理を実施した。

二神家は、江戸時代に二神村庄屋を代々務めた家柄で、その文書は、中世から現在に至る二神島の歴史を知る上で最も基本となる貴重な史料群である。1994 年、当主二神司朗氏（画家・教員）のご意向により神奈川大学日本常民文化研究所の所蔵となったが、移管に際し、司朗氏やご親族に関わrogくプライベートな書簡・メモをはじめ、一部の文書は二神島に残しておくことになった。しかし、まもなく司朗氏がなくなり、それから 20 年以上たって、無人となった司朗氏旧宅の傷みが



写真 1 文書の仕分け・保全作業



写真2 害虫駆除対策をして箱に保管

激しくなるにつれ、近年は残された文書類をどうするかが課題となっていた。

そこで今回、神奈川大学への移送を前提に、所員の田上繁・前田禎彦、客員研究員の関口博巨・萬井良大、職員の窪田涼子、院生の東出紘明・山室陸の7名が参加して、残置文書の仕分け・保全の作業を行うことになった。作業内容は、①旧宅に残る書類・文書を、司朗氏が描かれた絵画や襖なども含めて、ご近所にお借りした作業場に一通り運び出すこと、②書簡・メモを中心とした書類・文書を内容別に分類すること、③仕分けした書類・文書を殺虫剤を入れた箱に詰め、しばらく保管しておくことであった。正味3日間ほどの突貫作業であったため、翌2018年度中に、改めて大学に送って「二神司朗家文書」に加えるものと、そのまま地元に残しておく分（絵画や教員関係資料など）を最終的に判断し直すこととした。長年調査に関わってきたお宅の資料だけに最善の状態での保存できるよう注意を払いたい。

なお、2017年度は、関連して2017年12月9日に第21回常民文化研究講座「二神島 その歴史と民俗を訪ねて—二神島調査と神奈川大学日本常民文化研究所—」を松山市で開催した。二神島の歴史・民俗をめぐる所員・客員研究員による5本の調査報告が用意され、二神島・二神家の関係者や地元の歴史・民俗に興味を抱く方々が多数参加して盛況をみたことを付け加えておきたい。



写真3 二神島の風景

■活動データ

2017年度の活動

○二神司朗家文書の整理保全 2018年3月22日～25日

愛媛県松山市二神（二神司朗家） 前田禎彦・田上繁・関口博巨・萬井良大・窪田涼子、東出紘明・山室陸（院生）